

「バイオものづくり革命推進事業」プロジェクトに関する意見

ENEOS 株式会社 殿

令和 7 年 1 0 月 3 1 日

産業構造審議会 商務流通情報分科会 バイオ小委員会
バイオものづくり革命推進ワーキンググループ

本ワーキンググループで実施した議論を踏まえ、貴社におかれては、プロジェクト推進に当たって以下の点に留意のうえ、今後のモニタリングにおいて、その対応について報告されたい。

- ・ エネルギーに関わる業界・商材固有の事情は理解する一方で、「バイオものづくり革命推進事業」プロジェクトの出口として、バイオものづくりプロセスによる古紙を原料とした燃料を商用生産することを、自社の中期計画あるいはそれに類する、同等な計画に位置付け、公表すること。また、石油元売業界のリーダーとして、商用生産に真摯に向き合い、業界を牽引すること。
- ・ 様々なシナリオを置き、将来の市場規模を想定した上で、生産量・値段・コストを含んだ財務モデルを構築し、事業戦略ビジョン及び実施計画書に反映すること。また、状況の変化に応じ、これらの数値の変更を都度行い、事業化に向けたプロジェクトの進捗を評価すること。
- ・ 上記の対応方針や新たな事業戦略ビジョン、事業継続の意思について、本ワーキンググループにおいて再度説明すること。
- ・ 特許化、ノウハウ化する領域が明確になっておらず、コア技術の特定とオープン戦略とを一体的に検討すること。
- ・ 難再生古紙を中心に検討しており、原料調達も重要になることから、その調達システムの構築についても原料調達先である事業者と連携の上検討すること。
- ・ 国際標準の動向については、自社でも情報収集方法等を構築し、最新動向を把握すること。
- ・ 研究部門に標準化戦略担当を設置し、研究部門と事業部門の連携を強化する体制を構築している点は評価。一方、本事業の成果を社会実装につなげるには、事業者の経営戦略と一体となって標準化戦略に取り組むことが重要であるため、役員クラスでの標準化担当設置の検討も進めること。また、CORSIA や ISCC といった国際認証に関する取組についてもロードマップを作成し事業計画に記載すること。

以上